

道徳学習指導案

指導者 大野 耕作

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 1 日 (月) 第 5 校時
- 2 学 年 5 年 1 組 28 名 [5 年 1 組教室]
- 3 主 題 名 きまりはだれのために [4 - (1) 公德心・規則の尊重]
- 4 資 料 名 「シンガポールの思い出」(出典 5 年生の道徳 文溪堂)

5 主題設定の理由

○ よりよい社会生活を営むためには、社会を構成する人々が互いの権利を大切にし、お互いに保証し合うことが大切である。だが、互いの権利が時と場合によってぶつかり合うこともあれば、個人の権利を優先させることで社会全体に不利益が起こることもある。そこにきまりや法が生まれ、それを守るという義務が生じることで集団や社会全体の幸せや秩序を保つことができる。つまり、きまりや法は人が社会の中でよりよく生きるための知恵であり、人々の願いが形となったものとも考えることができる。

近年、規範意識の低下が大きく叫ばれている。ゴミのポイ捨て、落書き、公共物の使い方など周囲の迷惑を考えない行為が平然と行われ、さまざまな場面でマナーの悪さが目につく。この根底には、「自分さえよければよい」という個人の利己的な考え方が優先され、その行為にどんな影響があり、どんな迷惑がかかってしまうのか周囲に目を向けていない個人の心の弱さが内在していると思える。高学年になると、他律的な考え方から自律的な考え方への変容が見られるようになる。しかし自律性が未熟なために意識と行動が不一致する場面もしばしば見られ、きまりは知っていてもその場の雰囲気流されたり、きまりを自分の都合のいいように解釈したりすることもある。

だからこそ、きまりや法の意味や意義を理解し、自律的にそれらを守ろうとする規範意識を育てることが大切である。そのような自律的なとらえが個人の規範を確かなものとし、そのことが日常生活のさまざまな場面において、周囲への影響や社会全体の利益を考えて自らの行動を規制し、心ある行動をとろうとする意識の涵養へとつながっていくと考える。

○ 本学級の児童は、「きまりはしっかり守るもの」という意識は高く、廊下歩行や特別教室の使い方など学校のきまりを意識して生活する姿がよく見られる。また学校生活の中で不都合が出てきた時には、学級会などで自分達の生活のきまりを作り、互いに注意したり、声をかけ合ったりしながら、そのきまりを守ろうとしている。だが公共の乗り物や集団宿泊施設などきまりの存在がはっきりしてない公共の場になると、周囲の迷惑を考えず騒がしくしたり、公共物を雑に扱ったりすることも多く見られた。また他人の目が届かない所や少人数の場面になると、自分くらいはいいだろうという甘えやだれも見っていないという気持ちからか、自分勝手に行動することも少なくない。

このことから、児童は「きまりは守るもの」ということは知っているが、それは「守らないといけない」という他律的・機械的な考え方に止まり、きまりの意味や意義を考えながら自律的に

行動するまでには至っていないと言える。そのため、きまりの存在がはっきりしていない場面や、他人の目が及ばない場面になると、他者への心くばりができず、「ちょっとぐらいは」「自分だけなら」という後先を考えない利己的な考えを優先してしまい、マナーや規範を大切にしようとする自律的な行動へと十分につながっていないことが分かる。

- 本資料「シンガポールの思い出」は、きまりを厳しくすることで町がきれいになっているシンガポールと駅や道路のよごれが目立つようになってきた日本を比べて、公德の大切さやきまりの意義について読み手に問題提起しているお話である。

指導に当たっては、きまりを厳しくすることでシンガポールの町がきれいに保たれていることについて話し合い、きまりの意義やマナーの大切さに気付かせ、社会の一員としての自分のあり方について考えさせるようにする。導入では、日本とシンガポールの町の様子を提示し、なぜシンガポールの町がきれいなのか問題意識を持たせて資料に向かわせる。資料提示では、いろいろな標識の写真を提示しながらその意味を予想させ、話の内容をつかみやすくする。基本発問では、シンガポールの取組についての自分の考えを出し合い、その良さや問題点について話し合う。その際、なぜ町が汚れてしまう理由も考えさせ、「自分だけなら」「ちょっとだけなら」という一人一人の心の弱さが大きな影響を及ぼしていることにもふれる。中心発問では、丹野さんの言葉を聞いたわたしの気持ちを話し合い、社会の一員として何が大切なのか考えさせ、「みんなの町をきれいにしよう」という一人一人の規範意識やマナーの大切さに気付かせる。また、その集団や社会を構成している人々の思いが成文法となったものが決まりであることもとらえさせ、きまりを守ることはみんなの暮らしをよくすると共にみんなの願いや思いを大切にしていることを感じさせる。終末では、公共マナー向上の取組について取り上げ、住みよい社会にするために、いかに一人一人の規範意識やマナーが大切か感じられるようにする。

6 準備物

写真，データ，ワークシート

7 ねらい

- 丹野さんの言葉を聞いたわたしの気持ちを話し合うことを通して、社会の一員としての自覚を持ち、進んでマナーやきまりを大切にしようとする道徳的態度を養う。

8 本時のポイント

- きまりを厳しくすることの影響からきまりの意義や一人一人の規範意識の大切さに気付かせるために、シンガポールの取組について立場を決めて感じたことを交流し合う。その際、自分の考えをワークシートに書かせた後、グループで交流させ、友達の思いにふれられるようにする。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 日本とシンガポールの町の様子を比べて気付いたことを出し合う。	○ 日本とシンガポールの写真を比べて、どんなことに気付きましたか。 ・日本の駐輪場は煩雑な様子なのに、シンガポールの町はゴミもなくとってもきれい。	○ シンガポールの国の位置など基本的な情報は簡単に伝える。
展開前段	2 資料「シンガポールの思い出」を読み、きまりで町をきれいにすることのよさと問題点を話し合う。 3 丹野さんの言葉が気になったわたしの気持ちについて話し合う。	○ 丹野さんの話を聞いた私は『本当にそれでいいのかな。』と感じていましたが、みんなはどう思いましたか。 【よくない】 ・きまりが細かすぎないから、罰金をとられることも少ない。 ・きまりを守るためにきれいにするのではなく、本当に町をきれいにしようという意識も育ってくる。 【それでよい】 ・罰金はあるかもしれないが、結果として町がきれいになるのだからみんなのためになっている。 ・きまりを厳しくすることで、町をきれいにするというみんなの意識が高まる。 ◎ 丹野さんの言葉が気になって仕方なかったわたしは何を大切にしたいかたのしょう。 ・一人一人は自分で考えて行動すること ・ゴミを落とさないなどの責任感 ・規則が厳しくなくても、きれいにしようとする ・みんなの手でみんなの町をきれいにしようという気持ち	○ 標識の写真を提示しながら読み進め、資料の内容をつかみやすくする。 ○ 規則の利点と不都合な点を出し合いながら、きまりの意義をつかませる。 ○ きまりが厳しくない町が汚れてしまう理由も考えさせ、「自分だけなら」「ちょっとだけなら」という一人一人の責任感の欠如の影響力をとらえさせる。 ○ 一人一人の規範意識やマナーが大切であることに気付かせるとともに、みんなの手できれいにしたいという一つの形が規則であることも押さえる。
展開後段	4 自分の生活をふり返る。	○ もっとみんなのことを考えて行動したらよかったと思えることや、きまりがあったよかったと思えることはありますか。 ・図書室の本を雑に扱うことがあったので、もっと大切に扱えばよかった。	○ マナー向上のポスターや標識を提示して考えやすくする。

終 末	6 教師の説話を聞 く。		○ 授業の感想を書 き、自分の考えや思 いをしっかりとま とめるようにする。
--------	-----------------	--	---